

## 政策目標5 科学技術システム改革の推進

〔世界水準の優れた研究開発成果を生み出し、その成果を社会へ還元するための仕組みを構築するとともに、そのための基盤の整備・充実を図る。〕

### 主管課（課長名）

科学技術・学術政策局政策課（戸渡 速志）

### 関係課（課長名）

科学技術・学術政策局基盤政策課（山脇 良雄）、同国際交流官（加藤 敬）、同評価推進室（江崎 典宏）、研究振興局研究環境・産業連携課（佐野 太）

### 評価の判断基準

各施策目標の平均から判断（S = 4、A = 3、B = 2、C = 1として計算）。

S = 3.4～4.0

A = 2.6～3.3

B = 1.8～2.5

C = 1.0～1.7

### 平成18年度の状況

#### 科学技術関係人材の育成・確保、活躍の推進(5 - 1) A

若手研究者等が意欲と能力を発揮できる環境の整備については、例えば、平成18年度より、「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」を開始し、9機関においてテニユア・トラック制を導入するとともに、自立した研究活動を始動するための資金提供などが行われた。また、平成18年度より「科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業」を実施し、人材と企業の「出会いの場」の創出や、キャリア・コンサルティング、派遣型研修等の能力開発の実施など、8機関において取組が進められた。こうしたことにより、若手研究者の自立的な研究環境の整備や博士号取得者等のキャリアパスの多様化が促進されていることから、科学技術関係人材の育成・確保、活躍の推進については、概ね順調に進捗していると評価。

#### 科学の発展と絶えざるイノベーションの創出(5 - 2) S

競争的資金については、厳しい財政状況のもと対前年度とほぼ同額となる3,584億円を確保し、特に主要な制度である科学研究費補助金、戦略的創造研究推進事業、科学技術振興調整費等においては増額を措置しており、競争的環境の醸成に貢献。また、研究費の不正使用問題については、文部科学省所管の各制度で、研究費の不正使用等を行った者に対して申請等資格制限を適用する体制を整備するとともに、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」（平成19年2月15日文部科学大臣決定）を策定し、関係機関に周知した。

また、「大学知的財産本部整備事業」等の実施により、大学における特許出願件数は年々増加しており、現状の大学発特許取得件数（年間704件（速報値））は、10年後に年間1,320件（12年度88件の1.5倍）取得するという達成目標から想定される平成18年度の目標（826件）に対し85%となっているなど、順調に進捗。さらに、国際競争力のある地域イノベーション・システムの構築については、例えば、「知的クラスター創成事業」を18拠点において実施しており、18年度までに行われた中間評価において、多くの地域で順調にクラスター形成が進んでいると評価された。

以上、施策目標全体について総合的に勘案し、想定した以上に順調に進捗していると評価。

#### 科学技術振興のための基盤の強化(5 - 3) A

代表的な先端研究施設であるSPring-8及び地球シミュレータについては、先端大型研究施設戦略活用プログラム等の政策手段により、最先端の大型研究施設の産業界を含めた新規利用者の拡大が図られており、産業利用（共用）が確保されつつ、順調に共用が促進されてきており、産業利用の割合はともに基準年度の1.5倍以上であり、地球シミュレータについては2倍を超えたことから想定した以上に達成されている。よって、科学技術振興のための基盤の強化については、総合的に順調に進捗していると評価。

#### 科学技術関係の国際活動の戦略的推進(5 - 4) A

「大学国際戦略本部強化事業」の実施により、大学国際戦略本部等の全学的な組織・体制の整備等がされ、外国人研究者・留学生の支援体制の強化、国際展開に対応する大学教員・職員の養成等が図られるなど、国内の研究環境の国際化が進むとともに、平成18年度より開始した「アジア科学技術協力戦略推進プログラム（科学技術振興調整費）」により、アジア諸国との共同研究の推進、国際フォーラムの開催など、持続的な関係の構築に向けた取組が着実に進展していることから、科学技術関係の国際活動の戦略的推進については、概ね順調に進捗していると評価。

以上により、政策目標5の科学技術システム改革の推進については、科学技術関係人材の育成・確保、活躍の推進、科学の発展と絶えざるイノベーションの創出、科学技術振興のための基盤の強化及び科学技術関係の国際活動の戦略的推進のそれぞれの進捗状況を総合的に判断すると、研究開発の成果を社会へ還元するための仕組みの構築や、そのための基盤の整備・充実を図るという目標が概ね達成されたと評価できる。

なお、政策目標の評価は、 $(3 + 4 + 3 + 3) \div 4 = 3.3$ であった。

### 評価結果

A

## 19年度以降の政策への反映方針

第3期科学技術基本計画等を踏まえ、引き続き科学技術システム改革を推進するため、若手研究者や女性研究者が活躍できる環境の整備、国際競争力のある知的財産の創出等を図るための産学官連携体制の整備、クラスター形成事業による地域イノベーション・システムの強化、先端研究施設の幅広い活用（共用）、科学技術分野におけるアジア諸国との更なる関係強化等に取り組む。

なお、進捗にやや遅れが見られる競争的資金の拡充についても、上記計画等の方針を踏まえ、引き続き拡充に取り組む。

## 政策評価担当部局の所見

評価結果は概ね妥当。